

推進体制／継続的な改善に向けた取り組み

環境管理の組織、制度を整備し、環境目的・目標を設定して、継続的な改善活動を実施しています。

環境保全活動の推進体制

■業務特性に応じた環境マネジメント体制を構築

理想科学は、社長を環境保全活動推進の最高責任者とし、
 全社環境マネジメントシステムを運用、改善しています。環境
 保全活動の推進にあたっては、「理想環境憲章」「環境行動
 指針」のもと、全社の環境パフォーマンスの改善を図る「全社

環境マネジメントシステム」と、本部・事業所ごとの特性に
 沿った課題に取り組む「本部・事業所環境マネジメントシ
 ステム」を組み合わせ運用しています。

■環境配慮設計責任者を設置

製品における環境配慮活動を管理する「環境配慮設計責
 任者」を設置しています。環境配慮設計責任者は、製品への
 環境配慮設計の要求・目標が個々の製品開発に落とし込ま

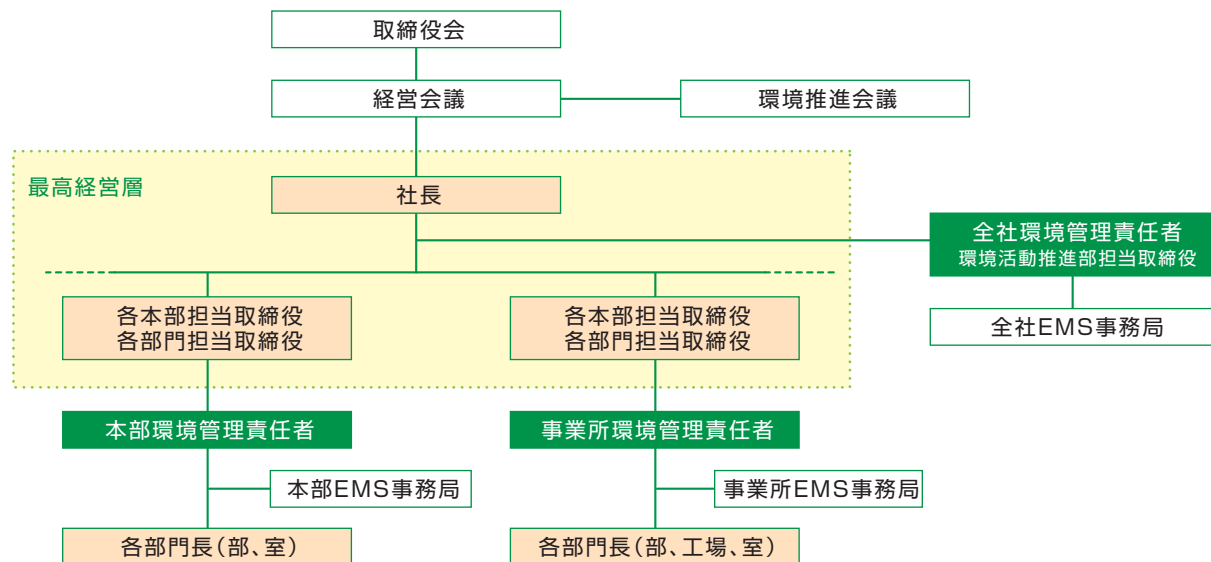
れているか確認し、製品への環境配慮が確実に実施される
 よう管理を行います。

■実践的なマネジメントシステムの運用

「本部・事業所環境マネジメントシステム」では本部・事業
 所ごとの特徴に沿って課題に取り組んでいます。たとえば生
 産部門や開発本部では多種多様な化学物質を取り扱うため、
 きめ細かな化学物質の管理と運用を、営業本部や本社ス
 タッフ部門では、お客様とのコミュニケーションや業務の改

善に重点を置いた運用を行っています。
 こうした環境マネジメントシステムにより、全社的課題につ
 いては全本部・全事業所でベクトルを統一して取り組み、個
 別の課題はそれぞれの業務に根ざした独自の活動で取り組
 む、という実践的な環境マネジメントを運用しています。

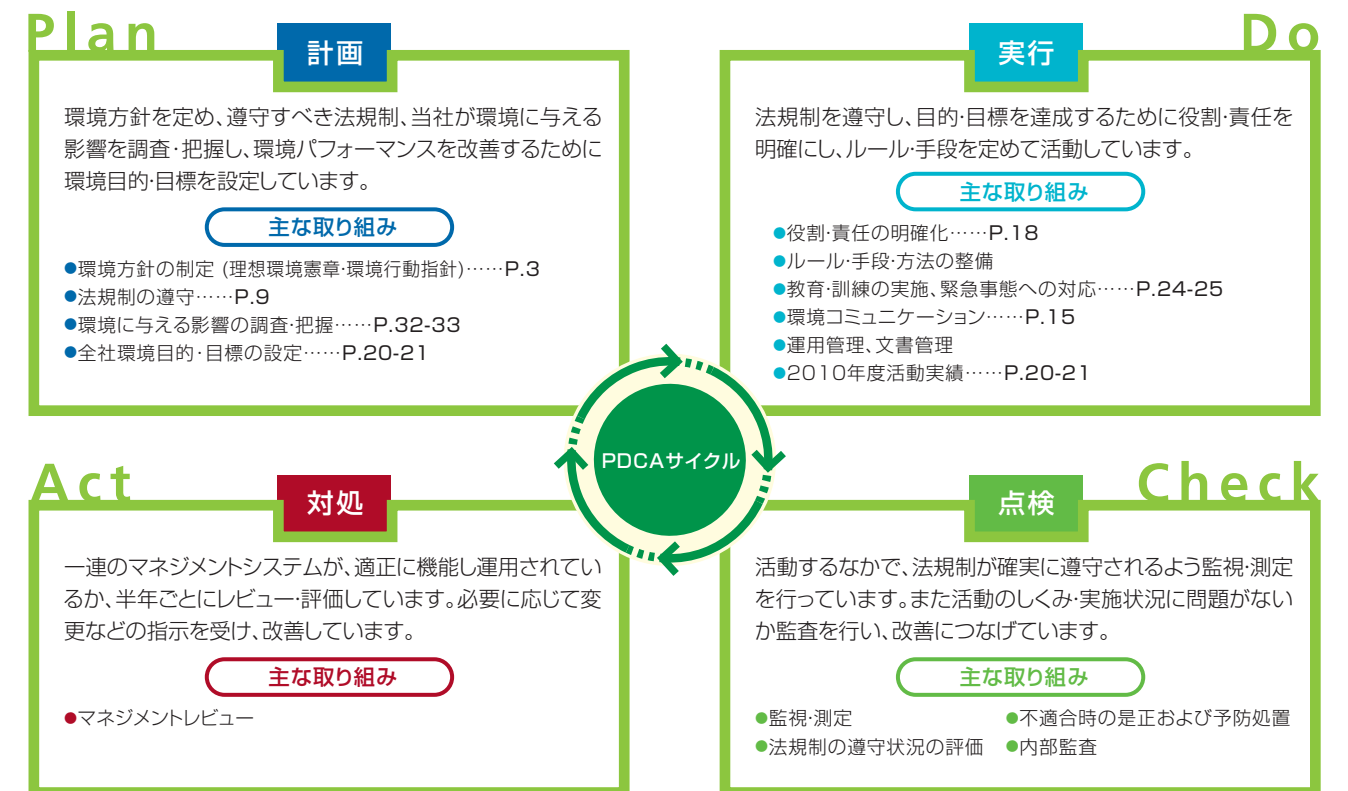
環境マネジメント体制



環境マネジメントシステムによる継続的改善

■PDCAサイクルを回すことで継続的な改善を実践

当社は、環境マネジメントシステムを構築し、PDCAサイクルを回すことで継続的に改善しています。



Column

「チャレンジ25キャンペーン」への参加

理想科学は、2005年12月より中長期のCO₂削減・原単位改善目標を掲げ、省エネに取り組んできました。2010年3月には、これまでの取り組みをさらに推し進めるため、2015年を達成期限とする中長期の省エネ計画を策定し、2010年4月より活動を開始しました。また、省エネ機器の導入やエネルギー効率の高い設備への更新など積極的な投資を計画的に実施しています。

こうしたなか、本社や営業部門などのオフィス部門をはじめ、社員の家庭においても普段から省エネ・省資源を意識し、実践的なCO₂削減に取り組む国民運動「チャレンジ25キャンペーン」に参加しました。このキャンペーンは、これまでの地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」から、よりCO₂削減に向けた運動へと生まれ変わり展開するものです。当社では、社内全体に広く呼びかけ、CO₂削減に向けた具体的な行動を推進しています。